

南足柄市で発見されたオヒキコウモリについて

浜 口 哲 一 ・ 一寸木 肇

Notes on Oriental Wrinkled-lipped Bat *Tadarida insignis*
found in Minamiashigara City

Tetsuichi HAMAGUCHI and Hajime CHOKKI

発見の経緯

1984年1月11日、神奈川県南足柄市向田の路傍で鈴木雅人君（当時南足柄市立向田小学校5年生）が1頭のコウモリの死体を発見し、担任教諭であった筆者の一人、一寸木に連絡した。このコウモリは、開張約38cmの大型の種で、尾が腿間膜から長く突き出していることから、オヒキコウモリ *Tadarida insignis* (BLYTH 1861) と判断された。

発見地点の環境は、周辺に水田も残る郊外の住宅地で、死体は舗装道路の、車のすれ違いのために道幅の広がった部分の路上に落ちていた。死体は新鮮であり、現場が、長時間落ちていれば車に轢きつぶされる可能性の高い場所であることから考えても、その日の早朝か前夜に死んだものと考えられた。当日の天候は晴れて、気温は低く、一面に霜がおりていた。

死体は右側の下腹部に傷があって出血痕があり、路上にも血が落ちていた。傷のある右側の翅は縮め、左翅は広げぎみで落ちており、車などにつぶされた感じはまったくなかった。傷が死因となったものか、あるいは死後、鳥などにつつかれたものかは判断できなかった。

このオヒキコウモリは、測定、撮影などを行った後、剥製標本とし、頭骨標本とともに平塚市博物館に收藏されている（登録番号 HCM-50-79）。

オヒキコウモリは朝鮮、中国東北・南部に分布する種で、日本での発見例は非常に少なく、発表されたのは10例に満たない（表1）。神奈川県下では、小田原市栄町で田代道弥氏が入手された個体（田代・吉行未発表）に次ぐ2回目の記録として、ここに報告してお

きたい。

観察結果と考察

今回、発見されたオヒキコウモリの標本について、観察、測定した結果を述べる。体色は上下面とも薄い黒褐色で、飛膜の第5指より体に近い部分は、やや黒味が強い。体毛は基部は白っぽく、先端は汚白色を帯びる。上膊と膝の間の飛膜上の上下面にも体毛と同じ毛が生えている。

翼は細長く、飛膜は脛の下部約3分の1の部分に着く。尾長は50.5%で全長の37%を占めており、腿間膜より長く突出している。尾を包むようになっている腿間膜は可動性があり、突出した部分の長さは尾長の45%~70%の間で自由に変化させることができた。

耳介は大きく、角ばった円形であり、左右が頭の前で結合し、その部分には体毛と同じような毛が生えている。耳介の内面には約9本の横紋、鼻鏡上縁には約26個の鋸歯状角質突起が認められたが、これらの点は剥製製作後に観察したので、厳密な値ではない。

性別は早で、吉行瑞子氏に見ていただいたところ、指骨の関節が骨化していないので亜成獣とのことであった。

外部形態および摘出した頭骨についての測定側を、国内産の他の記録とともに表2に示した。歯式は、 $\frac{1}{3} \cdot \frac{1}{1} \cdot \frac{3}{3} \cdot \frac{3}{3}$ であった。ただし標本製作の過程で下顎切歯の一部が脱落したため、標本には左の第一・第二切歯しか残っていない。

以上述べてきたような形態と測定値は、今泉・吉行（1965）、今泉（1970）に示されたオヒキコウモリの特徴とよく一致していた。ただし、今泉・吉行（1965）

表 1 日本国内におけるオヒキコウモリの採集例

No.	年 月 日	地 点	環 境	生死	性 齢	文 献
1	1944. 5. 初	福岡県沖の島	漁船内	生		阿部余1944
2	1957. 11.	北海道焼尻島	薪の中	生	♂ 成	阿部永1961
3	1964. 2. 24	熊本県熊本市	中学校校門			吉倉1969
4	1964. 4. 6	//	熊本城石垣	生	♀ 亜成	今泉・吉行1965
5	1972. 7. 21	三重県藤原町	小学校校舎	生	♀	富田1979
6	1977. 2. 8	神奈川県小田原市	市街地ビル裏	生	♂ 亜成	吉行・田代(未発表)
7	1978. 3. 7	三重県藤原町	住宅軒下	生	♀	富田1979
8	1981. 7. 5	熊本県長陽村	大学構内		♂ 成	動物と自然1981
9	1984. 1. 11	神奈川県南足柄市	住宅地路上	死	♀ 亜成	本稿

表 2 日本国内産オヒキコウモリの計測例

測定箇所		産 地								単位 %
		2. 焼尻島	4. 熊本市	5. 藤原町	6. 小田原市	7. 藤原町	8. 長陽村	9. 南足柄市		
性 ・ 年 齢		♂ 成	♀ 亜成	♀	♀	♂ 亜成	♂ 成	♀ 亜成		
外 部 形 態	全 長	143	142	152.1	140	132.8	136	136.4		
	頭 胴 長	92	89	102.1	87	82.0	85	85.9		
	尾 長	51	53	50.0	53	50.8	51	50.5		
	耳 介 長	26.5	32	26.0	31	27.9		29.1		
	前 腕 長	63	62	61.2		57.8	59.8	62.4		
	大 腿 長			23.0		23.4		22.4		
	下 腿 長			18.2	17	18.6		19.6		
	後 足 長(爪共)	11.3	10	14.1	13	11.2		11.5		
	翼 開 張					約300	約350	約300		
	第 一 指 長					4.0		5.5		
頭 骨	第 三 指 長					111.0		108.7		
	第 五 指 長					52.0		55.0		
	頭 骨 全 長	24.4	24.0	25.1		24.2		23.9		
	頭 骨 基 底 全 長	23.5	23.4	24.2	23.56	23.4		23.4		
	頬 骨 弓 部 幅	13.6	13.4	14.5	13.97	14.0		14.0		
	眼 窩 間 最 狭 幅	5.0	4.6		4.76			4.9		
	脳 筐 幅	11.6	11.2		11.85			11.5		
	脳 筐 高	6.3	7.5		7.45					
	乳 様 突 起 間 幅	12.9	12.8	13.0		12.9		13.0		
	頬 齒 列 齒 槽 部 長 C-M3		8.8	9.2		9.0		9.3		
骨	下 顎 長	17.7	17.5	17.9	17.02	17.3		17.3		
	下 顎 齒 列 長 i-m3	10.9	10.5	10.6		10.4		10.4		
	// c-m3		9.7	9.7		9.5		4.6		
体 重 (g)								27.7		

出典は、表 1 参照。 6 は吉行瑞子氏の計測値（未発表）による

にヨーロッパ産の *T. teniotis* との区別点の一つとして示されている頭骨の基底全長に対する下顎長の比は73.9とやや小さく、頬骨弓部幅の比は59.8とやや大きかった。富田（1979）の測定した三重県産標本2点、吉行（未発表）の測定した小田原市産標本の測定値を見ても、この2つの点は *teniotis* と個体変異の幅が多少、重なってくるようである。

さて、大陸産のオヒキコウモリが、稀に日本で発見される原因として、吉倉（1969）は台風あるいは南からの季節風によって南方から運ばれるという説を述べた。近藤（1978）は季節風によって迷行した可能性が強いと述べ、その根拠の一つに、この種がきわめて飛翔能力の強いことをあげている。表1にあげた9例についてみると、半数以上の5例が11～3月の冬期に発見されており、国外の分布から考えても、南方からの迷行と考えるのは妥当でないだろう。本種が渡りをするのか、あるいは冬眠をするのかといった生態も不明な現状ではこれ以上の推論は不可能であるが、あえて、想像をたくましくすれば、本来、大陸の南方へ移動する個体が北西季節風によって日本列島に運ばれ、冬眠あるいはそれに近い状態を余儀なくされて発見に至るといった例が多いのではないだろうか。

謝 辞

本稿を執筆するにあたっては、オヒキコウモリの第一発見者である鈴木雅人氏、文献の閲覧などの便宜を図ってくださった寺西敏夫、中村一恵の両氏、また未

発表資料の利用を許していただいた田代道弥氏の御協力をいただいた。また吉行瑞子氏は、観察や計測について御指導くださるとともに、未発表資料の引用を許してくださった。末筆ながらこれらすべての方々に、厚く御礼申し上げる。

引用文献

- 阿部余四男 1944 沖の島付近のオホミミカウモリ属. 動物学雑誌. 56: 59.
- 阿部 永 1961 北海道にて採集された稀種オヒキコウモリ及びトウキョウトガリネズミについて. 哺乳動物学雑誌. 2(1): 3~7.
- 吉倉 真 1969 注目すべき県産の小獣. 自然と文化を愛する会会報 (1969年4月6日号).
- 今泉吉典・吉行瑞子 1965 日本産オヒキコウモリの分類学的考察. 哺乳動物学雑誌. 2(4): 105~108.
- 富田靖男 1979 三重県の哺乳類相. 三重県立博物館研究報告自然科学. 1: 5~68.
- 動物と自然 1981 動物界ニュース. 熊本でオヒキコウモリ捕まる (熊本日々新聞1981年7月5日号ダイジェスト). 動物と自然. 11(11).
- 今泉吉典 1970 日本哺乳動物図説上巻, 新思潮社
- 近藤四郎・日本野生生物研究センター 1978 日本の野生動物. サンボウジャーナル
- (浜口哲一: 平塚市博物館, 一寸木肇: 南足柄市立向田小学校)

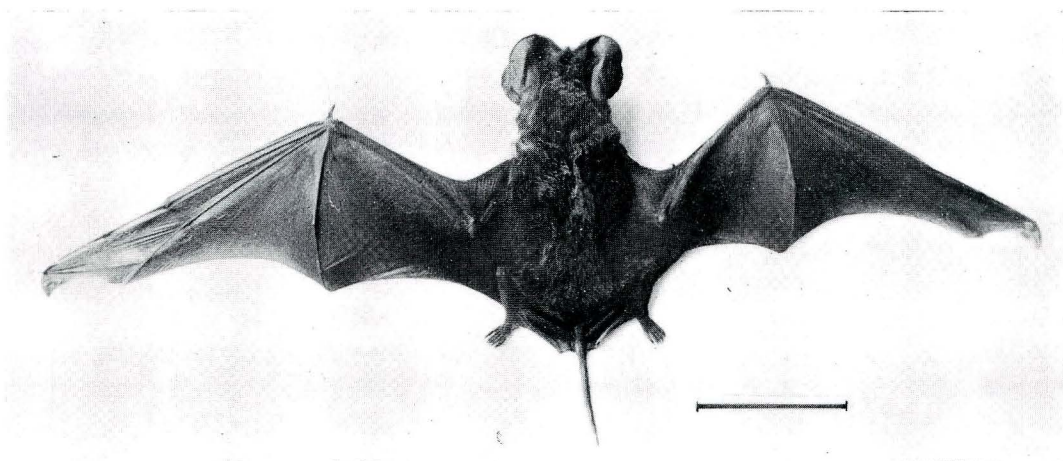


図1 全身背面（スケール10cm）

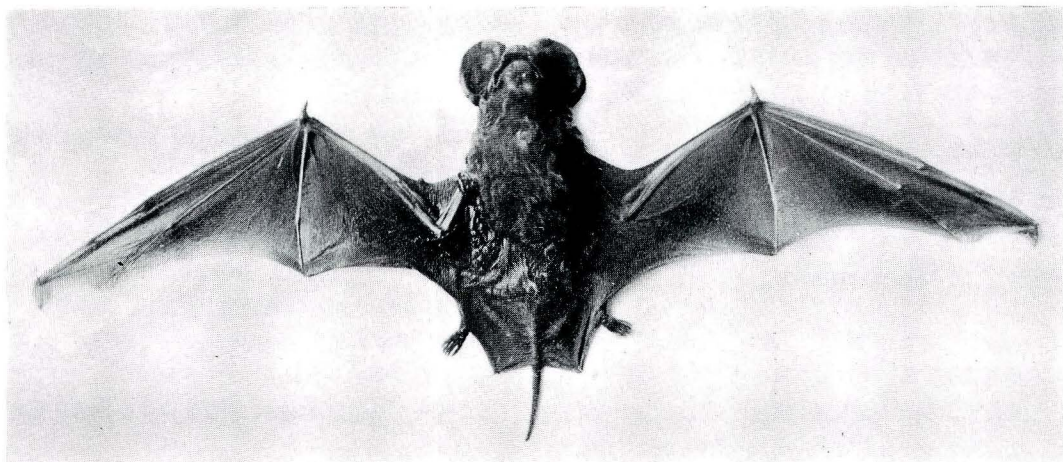


図2 全身腹面



図3 頭部腹面



図4 尾部腹面